

令和2年5月27日

2019 卒業後アンケート集計・分析

IR 室

戸板女子短期大学の学びでどのような力が身についたか、また、卒業後どのように役立ったか、以下の卒業年度の卒業生に向けて郵送によるアンケート調査を行った。

直近の2か年（平成29年度～平成30年度）、平成26年度から遡って昭和60年度の（5ヵ年ごと：平成26年度、22年度、17年度、12年度、7年度、2年度、昭和60年度）の各学科の卒業生に向けて実施した。（送付資料は、別紙参照）

令和元年10月末に3,121通を郵送し、28通（0.8%）の回答があった。

服飾系10名、国際系10名、食物系8名の内訳である。

回答分布は、平成29年度が6名、平成30年度が4名、平成12年度が4名で多い数値の回答数であるが、全体的に返信数は低調である。

職業については、一般職が12名（42.9%）、パートは7名（25.0%）、総合職は1名（3.6%）のみということで、一般職やパートの仕事をされている方が多いことがわかる。

キャリアについては、同じ会社で一つの分野の業務を経験してきたが15名（53.6%）で、同じ会社で多岐に渡る業務を経験してきたが7名（25%）、転職をしながら、異なる業務を経験してきたが4名（14.3%）であり、同じ会社の方が22名（78.6%）で圧倒的に多い回答であった。

本学のディプロマ・ポリシーは、2017年度に設定したものであり、今回回答を依頼した多くの卒業生にとっては在学当時にはなかったものである。

しかし、建学の精神、校訓は変わっておらず、目指すべき卒業時の人間像は不変と考えている。

現代のディプロマ・ポリシーの観点で振り返りを行った結果は、別紙1の通りであった。

「コミュニケーション能力が身に付いたと感じるか」については、「はい」が21名であった。

「知識・理解が身に付いたと感じますか」「技能・表現が身に付いたと感じますか」は23名が身についたと感じており、実務修得という短大の学びの特徴がよく表れているようだ。

なお、「思考力・判断力が身についたと感じるか」については、「はい」が13名であり、「どちらともいえない」10名、「わからない」が4名となり、思考力・判断力が身についたかどうかは、ディプロマ・ポリシーの中では最も低い状況であった。

5つのディプロマ・ポリシーのうち、「思考力・判断力」が身に付いたと感じている卒業生が回答数の半数を切っていることから、この2つの力を育成するカリキュラムや課外活

動の仕組みが必要であるとわかる。

在学時、学科で学んだことが、その後の社会人活動に役立っていると回答してくれている卒業生の声は大きいですが、2018年3月卒、2019年3月卒はプレゼンテーションについて、その後のご自身に自信となったとの回答が多いことから、学びの特徴が学生に伝わっていることが伺える。

なお、いずれにしろ回答数が3,121人のうちの28名(0.8%)からの結果であること。結論を出すにはあまりに少ない母数ではあったが、全員が所属学科、氏名、連絡先を明記しており、回答者の属性別人数がほぼ同じような数であることから回答に関しては大きな偏りはないものと推察される。

次回の卒業生アンケート実施に際しては、昨年度に引き続きアンケートの回答数を増やす特別の取り組みが必要であると考えられる。

以上